

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける！  
ワーカー物語

# 「つながりづくりから始まる地域づくりを！」

心に残るエピソードは？

ある高齢の父親と引きこもりの息子の世帯への関わりが印象に残っています。周囲の関わりを望まない父子で、家の中はごみが散乱し、悪臭や害虫で近隣からの苦情もありました。家族も疎遠でしたが、なんとか娘に連絡がとれ、住民の方や関係者と共に今後の生活について話し合う場を設けました。責められるのではないかと不安だった娘を住民は温かく迎え入れ、一緒に父子を支え

ていこうということになりました。「苦情」として表れていた住民の声は、「心配で何とかしてあげたい」という切実な想いだったことに気付き、人と人のつながりから支え合いが生まれるということ、そして、二つの課題を住民の方々と共に考えていくことが大切だと感じました。

力を入れたい活動は？

住民が身近な地域の福祉課題に気付き、自分たちにできることを考えられる小学校区単位での福祉講座の開催に力を入れていきたいと思っています。人口25万人の西区に地域福祉ネットワーク※は一人しかいません。だからこそ、住民同士で支え合い、住民自身の力で課題解決を行えるような地域づくりは大変重要です。講座では住民自身が困っていることを出し合い、自分たちにできることを話し合います。今後はそこから一歩進み、受

講者が地域で支え合い活動を実践できるような支援をしていきたいと考えています。

大切にしていることは？

ワーカーである前に、一人の住民としての感覚を持つことです。住民の目線で考えて行動できれば、より理解し合える関係を地域の方々と築くことにつながると思います。そして、地域の中では社協が表に出るよりも、できるだけ縁の下で支え、関係者をつなぐことで、住民自身の力で課題を解決する「地域づくり」を支援していくという視点も大切にしていきます。また、個人の支援や関係者のつながりづくりは地域福祉ネットワークだけで行うものではありません。個人と地域全体への支援を社協の全職員の総合力で行わなければ「地域づくり」は実現しないと考えています。

自分たちにできることを考える福祉講座を開催



## 取材を終えて

冒頭の父子宅を訪れる際は、近隣住民宅へのあいさつを欠かさなかったと語る藤田さん。困り事を抱える住民だけでなく、周囲で力になりたいと思っている人々にもアンテナを張ることが、お互いを気に掛け合い支え合う地域づくりにつながるのだと感じました。

※地域福祉ネットワーク：神戸市で、既存の制度やサービスで対応できない困り事を、地域の住民や専門職と結ぶ解決するためのつながりづくりを行う専門職。

神戸市西区社会福祉協議会  
地域福祉ネットワーク

藤田 裕さん

### Personal History

- 26歳 神戸市社協ボランティア情報センターに入局
- 28歳 北区社協で地域福祉活動コーディネーターとなる
- 30歳 市社協で施設担当
- 34歳 市社協で総務課へ配属
- 39歳 西区社協で地域福祉ネットワークとなる

